

2012年度以降入学者用

2017年度「卒業研究」(3学科共通) 課題リスト

※「履修要項」92頁～93頁を熟読の上、各学期の6課題のなかから「卒業研究1」として2課題、「卒業研究2」として2課題を選択しなさい。ただし各学期とも自学科からの課題を1課題以上含めること。

※課題レポートは1課題につき、4000字以上とする。

春学期 (卒業研究 1) =====

■社会学科の課題■

社1: 社会学者の著作・論文(必ず1本以上)、その社会学者(の著作・論文)について書かれた著作・論文(0本でも可)をあわせて最低3本読んだ上で、自分でテーマを設定し、それについて自由に論じなさい。

*この課題には三段階の作業が含まれます。文献の選択、テーマの設定、論文の執筆。しかし作業がこの時系列に沿って進むとは限りません。もっとも重要なことは「テーマの設定」、つまり何を「問題」として立て、それを「どのように」論じるか、ということですが、それは初めからどこかにあるものではなく、自分で発見(=創造)するものです。文献を読みながらしだいに明らかになる場合もあれば、論じていくうちに変わっていくこともあります。自分の中に「問題」が発見(=創造)されない限り、この課題にこたえることはできません。そのことをよく理解したうえで、研究に取り組んでください。

社2: いま私たちが直面している、工業時代を超えて新たな発展段階に入った社会や経済は「ポスト工業社会」、「情報社会」、「ニュー・エコノミー」、「知識経済」といった様々な用語で記述されている。いずれの用語の社会や経済においても、人々の働き方は大きく変化していると言われている。3つ以上の文献を読み、「ポスト工業社会」、「情報社会」、「ニュー・エコノミー」、「知識経済」における働き方の変化に関する諸議論を整理したうえで、働き方の変化に関する仮説を立て、働いている人(3名以上)を対象にインタビューを実施し、仮説の検証や検証結果に関する考察を行いなさい。

■現代文化学科の課題■

現1: 現代の都市または地域社会に生じている問題を1つ取り上げて、具体的な統計データ、行政刊行物、各種文献などの資料を用いて具体的に説明しなさい。そのうえで、取り上げた問題について、資料とは別に学術的文献3点以上を参照して、社会学的知見に基づいて論じなさい。

現2: 日本における環境問題の論点の変化を歴史的に論じ、そのうえで日本の国際社会への貢献可能性について、①何を、②どのように貢献しうるか考察しなさい。その際、以下の条件を満たすこと。

- (1) 人権、生態系、社会運動、地域再生のうち、いずれかに言及すること。
- (2) 文献を5冊以上読んで、適切に用いること。
- (3) 新聞・雑誌記事などの参考資料を2点以上用いること。
- (4) 引用箇所が明示され、参考文献が適切に表示されていること。

■メディア社会学科の課題■

メ1: 「メディアと世論の関係について」

「世論」は現代社会を測る重要な指標のひとつであると同時に、あいまいでとらえどころのないものともいわれる。また活字、放送、電子ネットワーク等のメディアの違いによっても変わってくるかもしれない。

現代の日本社会において、それぞれのメディアはどのように世論を形成しているだろうか。またその形成過程は公共性などの観点からどのように評価できるだろうか。これらについて、メディアが果たす役割や将来のあり方を議論しつつ考察しなさい。

考察に当たっては社会・政治・経済・国際関係などの分野から具体的な事例を選び、それに関する世論のありかたを新聞記事や番組その他を豊富に引用・参照すること。

メ2: 「ナショナル・メディアとローカル・メディア」

なんらかの社会的なできごとに関する報道について、日本全国を対象とするメディア（ナショナル・メディア）であつかわれる場合と、特定の地方や地域のメディア（ローカル・メディア）であつかわれる場合とで、内容や構成に違いがある場合が少なくない。

こうした違いが具体的にどのような現れ方をしているか、具体的な事例をとりあげ、全国メディアとローカル・メディアの比較による違いを明らかにしながら、それらが果たすべきそれぞれの役割や将来のありかたについて考察しなさい。

分析の対象は新聞、TV ニュース、ドキュメンタリー、また自主制作映像などを含んでもよい。但し、閲覧可能なものとする。また比較は複数の記事を多数集めた量的な比較でもよいし、特定の事例を数点にしぼって質的に比較するかたちでもよい。

なお、上記のテーマを「外国メディアと日本のメディア」に置き換え、国内外の比較としてもよい。

秋学期（卒業研究 2） =====

■社会科学の課題■

社 3: 原爆・空襲・沖縄戦などの戦争体験や、東日本大震災のような災害体験、あるいは水俣病などの公害の被害体験、といった苦難の経験ないしその記憶を、非体験者・非当事者は、いかに「自分ごと」としてとらえ、そこに関係していけるだろうか。そこには、どんな困難と可能性があるだろうか。これについて、5点以上の文献（単行本や論文）を参照し、かつ、なんらかの基準で選んだ3人以上にインタビューをおこなったうえで考察しなさい。

上記課題文中の「原爆・空襲・沖縄戦などの戦争体験や、東日本大震災のような災害体験、あるいは水俣病などの公害の被害体験、といった苦難の経験ないしその記憶」については、特定の災害や公害、戦争体験に絞って論じてもよいし、複数のものを関連づけて論じてもよい。

社 4: 「以下の課題テーマから1つを選び、①その問題の概略について統計データ等の客観的資料を適宜引用しつつ概観し、②その問題に対して国家や地方自治体などの公的部門がどのような政策的対応を展開しているか具体的に説明し、③その政策的対応の社会的効果や課題点について考察しなさい。レポートをまとめるにあたっては、④単行本や論文など5本以上参照すること。

- a. 持続可能な福祉・社会保障のありかた
- b. 地方分権、地方行財政の課題
- c. 多様な人びと、ライフスタイルが共生する社会

■現代文化学科の課題■

現 3: 日本の「移民政策」に関する最近の新聞記事（2点以上）を検索して、それぞれの内容をまとめなさい（新聞名、記事の日付とタイトルを明記すること）。次に記事の

事例と関連する文献（専門書や論文等）を収集して、日本の移民受け入れ賛成という論調と移民受け入れ反対の論調、それぞれの論旨をまとめたうえで、その議論と関連させて自分の立場について述べなさい。

現 4：現代の「価値とライフスタイル」の全体的動向について論じなさい。ただし、次の条件を満たすこと。

- (1) 現状だけでなく、これまでの歴史的変化についても論じること。
- (2) 根拠として、消費、アート、ポピュラーカルチャー、宗教のいずれかに関わる具体的現象についてのデータを 2 つ以上示すこと。（量的データでも質的データでもよい。）
- (3) 関連する学術的文献を 5 冊以上読み、そこから適宜引用するとともに、引用文献を示すこと。
- (4) 引用文は全体の字数の半分以下とすること。
- (5) タイトルは、レポートの結論を適切に表現したものとする

■メディア社会学科の課題■

メ 3：「政治とインターネット・メディアの関わりについて」

1 政治的に明白に右派、左派の立場をそれぞれとっていると思われるウェブサイト(ツイートボタンが置いてあるサイト)をそれぞれ 3 つ以上探しなさい。

2 リツイートの拡散経路を可視化してくれるツール「無料 RT 分析ツール」

<http://rt.nakanohito.jp>

を用いて、そのサイトをリツイートしたソーシャル・グラフを表示させ、どのような Twitter ユーザーによってリツイートが拡散されているか調べなさい。

その際、リツイートした Twitter アカウントのアイコンをクリックすると、そのアカウントに飛ぶことができるので、拡散主を中心にできるだけ、それらのアカウントがどのような立場に立っている人なのかをできる限り調べ、リツイートの拡散経路を可視化したソーシャル・グラフ全体の傾向を明らかにしてください。

3 上記 2 を明らかにするにあたって、本あるいは論文を 3 つ以上用いてその論拠を補強しなさい。

メ 4：「メディアと『忘れられる権利』について」

2014 年 5 月、EU 司法裁判所は、Google に対し、ユーザー個人の「忘れられる権利」を認める判決を下した。この訴訟の背景には、アメリカの自由主義(プライバシー保護よりもパーソナルデータ利活用を重視)と EU の保護主義(特に個人のプライバシー保護重視の立場)

の違いと対立があるものと考えられる。こうした状況を前に、日本でもパーソナルデータについての検討委員会を内閣府が立ち上げるなどの動きが見られる。

そこでまず「忘れられる権利」について適切に説明したうえで、アメリカの自由主義と EU の保護主義について、本または論文を三つ以上参考にしながら説明しなさい。さらに日本における検討委員会の審議内容やそれに関する報道などをていねいに調べて、日本がアメリカと EU 両者の理念の間でどのような立場に現在あるのかをできるだけくわしく説明し、あなた自身の主張とその論拠を明らかにしなさい。